

「西田先生は岸田政調会長が総裁選に出た場合支持しますか？」

令和2年1月22日

● Yさんからの質問

安倍総理は岸田政調会長を次期総裁として押しておられるようですが、西田先生は岸田政調会長が総裁選に出るとなった場合支持しますか？このデフレから一刻も早く脱却しなければならない局面において岸田さんのような緊縮派を総理にするなんてデタラメを許してはならないと私は思いますが、どうでしょうか？

● 西田昌司の答え

私は岸田政調会長が総理として相応しい方だと思っています。次期総理に相応しい人は誰かとの世論調査結果によると、石破先生がランキング1位と聞きますし、石破先生も立派な方ではありますが、私は岸田政調会長を推します。

安倍総理がアベノミクスを掲げてから7年以上が経過しました。当初は「金融緩和・財政出動・成長戦略」を三本の矢と称していましたが、一番重要であったはずの二本目の矢である「財政出動」が十分にされてきたかという、私もそのようには思いません。

デフレ状況下の今の日本を救うには財政出動をする以外に方策はありません。今回、久々に4兆円の補正予算が通りましたが、まだまだ足りません。私が主張している新幹線ネットワークの構築等のインフラ整備をするためには、今回の補正予算の規模では不十分ですし、何よりも長期的な計画が必要です。人生100年時代の社会保障をしっかりとするためにも、財源としては徴税のみに頼ることなく、公債発行を上手く組み合わせる必要があります。

MMT が示したごとく、日本のように自国通貨建ての国債を発行する国においては、国債発行の上限は（過度のインフレにならない限り）ありません。

私は岸田政調会長のところに何度も足を運んで財政出動の必要性を訴えてきました。私が MMT の話をすると、それについては慎重な構えをされはしますが、財政出動については案外、肯定的であります。

これまで日本は財政再建路線を 20 年以上続けてきましたが、そもそも財政再建の必要はないことを MMT は示しました。MMT を理解してしまえば「今までの財政再建路線は一体何だったんだ」ということになってしまいますので、たとえ政府が MMT を理解できたとしてもこれまでの路線を一気に 180 度転換することは難しいでしょう。しかし、少しずつであっても方向転換していかなければなりません。

岸田政調会長はある程度の理解はされているのですから、さらなる理解の手助けを我々がしていけば、安倍総理が本来すべきであった経済政策の実現も可能でありますし、そのような方向転換について安倍総理も歓迎されるはずです。岸田政調会長が次期総理になれば、修正版アベノミクスが実施されて景気回復することも十分に考えられます。

岸田政調会長にどこまで MMT をしっかりと理解していただくかにかかっていますし、岸田政調会長のみならず今の自民党の緊縮財政派の先生方の考え方を修正していかなければ、誰が総理になったとしてもデフレ脱却は叶わないでしょう。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>